

石川県立美術館だより

平成16年4月1日発行 第246号

特集 春の優品選

4月1日(木)~18日(日)前期 4月22日(木)~5月16日(日)後期
午前9時30分~午後5時 入館は午後4時30分まで)



色絵山水図卓 粟生屋源右衛門 江戸19世紀

目次

春の優品選・前期(前田育徳会展示室).....	2	平成15年度新収蔵品一覧.....	5
春の優品選・前期(第2展示室).....	2	企画展TOPIC、県美Q&A、各地の展覧会.....	6
常設展示室 主な展示作品.....	3	企画展示室、第1回美術館バスツアー.....	7
映像ギャラリー.....	3	美術館の催し物、4月の行事案内.....	7
展覧会回顧、貸出中の所蔵品他.....	4	所蔵品紹介、友の会からのお知らせ他.....	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

春の優品選

4月1日(木)~18日(日)前期

4月22日(木)~5月16日(日)後期

加賀藩前田家に伝わった文化財を、毎月テーマを設けて展示公開していますが、今回の展示は大藩の藩主としての格式ともいえる「文武両道」の精神を、絵画や、器を主とした工芸品のあわせて二十一点(一部前期後期の展示替えあり)の作品から、感じ取っていただければ幸いです。それでは作品を紹介します。

黒塗村梨子地桜寿帯鳥文蒔絵鞍・鏡

鞍は、前輪と後輪に桜樹と寿帯鳥を蒔絵し、鏡には鉄地に漆を焼きつけ、鳩胸から笑にかけて鞍と同意匠を施した華やかな武具の一揃いです。爛漫の桜は、華やかさとともに無常感を象徴しており、そこに武将の姿を重ね合わせることでできるのではないのでしょうか。鞍の居木裏に「明暦二丙申年十月吉辰日 喜多川造斯」の銘文があるところから、明暦二年(一六五六)の制作年がわかります。

蒔絵三十六歌仙花卉文提重

提重は手に持って携行するために作られた組重箱です。秀吉の「吉野の花見」や「醍醐の花見」に象徴されるような、屋外の宴に気軽に持ち運べる弁当箱の一つの形体として、桃山時代あたりから使われ始め、江戸時代には大いに流行したものとされます。外枠の両側面は透かし彫りとし、片面十八名ずつ、あわせて三十六歌仙が互の目に配られています。

外枠の天板には重ね色紙に源氏絵と柴垣に桜がそれぞれ蒔絵され、中央には桜花を座金とする把手がついています。中には四段重箱・銀製の徳利二本・徳利台・取皿・引き出しなどが納められています。それぞれに源氏絵を主に桜や楓が表現されています。

春秋の自然を楽しんだ往時の人々の、風流な嗜みを彷彿とすることができます。

暖冬で安心していたところに突然の大雪があり、かと思つと記録的な高温の日もあつた今年の冬が去つて、ようやく穏やかな春の陽射しが感じられるようになりました。あちこちの桜も、まさに開花の時期を迎えようとしています。そうした季節にあわせ、館藏品・寄託品の中から、絵画、工芸、書の作品十五点を選び前後期に分けて公開します。前期では、九点を展示しますが、その中から二点を紹介します。

泉文 群鶴図 俵屋宗雪

金地に、緑青でゆるやかな土坡を描き、そこにさまざまな姿態で群れる鶴を克明に描いています。そのかたちや線描は力強く、ところどころに配された萩・笹・松、そして水に浮かぶ沢瀉など、金箔地の効果を十分に生かした大らかさを感じさせる、力ある作品です。このように金地に緑青の濃淡で起伏する土坡を描き、その上に草花や動物を細密に描いた、左右広がりのある装飾的な構成法は、宗雪画の特徴ともいわれます。宗雪が、加賀藩に仕えた後の作品とみられ、加賀藩三代藩主前田利常が、明暦三年に建立した梯天満宮(現小松天満宮)に、利常自身が寄進したとの伝えもあり、加賀に古くから伝世されている優品です。

古今集(了佐切) 藤原俊成

『古今集』の一部分です。このように切れ切れとなつて残つた文書を断簡と呼びます。一首は藤原興風、もう一首は紀貫之の歌で、古今集巻第五「秋歌下」に所収された部分です。俊成風と呼ばれる奇癖の強い書風で、古筆了佐(一五七二~一六六二)が極札を出したことから「了佐切」と呼ばれています。

筆者の藤原俊成(一一一四~一二〇四)は、御子左家・藤原俊忠の三男で、藤原定家の父として知られています。平安末から鎌倉初期にかけての歌人として、また歌学者として当時の歌壇の指導的立場にあり、『千載和歌集』の撰者としても有名です。



群鶴図(右隻)

常設展示室(第2展示室)

特集

春の優品選

4月1日(木)~18日(日)前期

4月22日(木)~5月16日(日)後期

常設展示室

主な展示作品

4月1日(木)~18日(日)

●=国宝 =重要文化財 =重要美術品
=石川県指定文化財



●色絵雉香炉(左)
色絵雌雉香炉(右)
野々村仁清

前田育徳会展示室

特集 春の優品選(前期)

観音羅漢像

寿老・鶴図

流鏝馬図

鷹狩図(春の景)

障子文金銀象嵌鏡

瑠璃地草花文平鉢 餅花手

色絵絵替中皿 古九谷

黒塗布目引出絵替絵具筆筒

第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

第2展示室(古美術)

色絵鶴かるた文平鉢 古九谷

青手樹木図平鉢 古九谷

色絵布袋図平鉢 古九谷

特集 春の優品選(前期)

色絵山水図卓

蒔絵梅鉢紋女儀御輿

群鶴図

四季草花図

古今集(了佐切)

白隠

佐々木泉景

住吉廣長

六代梅田九栄

伝二代五十嵐道甫

野々村仁清

野々村仁清

野々村仁清

粟生屋源右衛門

伝加賀藩細工所

依屋宗雪

藤原俊成

第3~6展示室は、4月18日(日)まで第60回現代美術展会場となっております。通常の展示は4月22日(木)からですが、じこうでご案内いたします。

観覧料

一般 350円	個人	団体(20名以上)
大学生 280円		
高校生以下は 無料	個人	団体(20名以上)
一般 280円	個人	団体(20名以上)
大学生 220円		
高校生以下は 無料	個人	団体(20名以上)



四季草花図



青手樹木図平鉢



色絵鶴かるた文平鉢

映像ギャラリー

今月の映画・ビデオ

4月11日(日) 月例映画会/ホール	伝統に生きる 加賀蒔絵	[大場松魚・寺井直次・小松芳光]	(28分)
4月18日(日) ビデオ鑑賞会/ホール	国宝1 法隆寺 釈迦三尊像と玉虫厨子		(35分)
4月25日(日) 月例映画会/ホール	手漉和紙		(30分)
	金箔		(26分)

いずれも入場無料

今月の月例映画会は、上記の3本を上映いたします。

「伝統に生きる 加賀蒔絵」は、加賀の地で制作されてきた蒔絵について、その特色と技術を紹介したものです。前半部分は、江戸時代から受け継がれてきたその高度な技術を、五十嵐道甫、清水九兵衛など名工の

作品のなかに見ていきます。また後半部分は、寺井直次、小松芳光、大場松魚ら現代作家の仕事の様子をとらえるとともに、制作に対する作家の心情が語られています。

「手漉和紙」は、千年以上の昔から越前和紙の産地として知られている、福井県今立町の和紙作りの作業の様子を、その工程を追って紹介していきます。

「金箔」では、その製造過程における上澄屋・箔打屋の手仕事を詳細にとらえるとともに、箔製造に欠かせない和紙の制作や、郷土の伝統産業との関連を紹介いたします。

また今年度から、当館が所蔵しているビデオの鑑賞会を行っていきます。本年は、国宝に指定されているものの中から選りすぐった文化財を、様々な角度からとらえた「国宝シリーズ」をとりあげます。今回放映する「法隆寺」は、聖徳太子が斑鳩の里に建立した法隆寺の至宝を紹介したもので、この巻では、釈迦三尊像と玉虫厨子を中心に、その特徴を丹念に見ていきます。

展覧会回顧

平成15年度開催の展覧会(2)

後期に1階企画展示室で開催された当館主催の特別展は2回です。

「畠山記念館名品展 - 茶道美術を中心に - 」は、同館の特別の配慮により実現したものでした。書蹟12点、絵画18点、茶道具51点、懐石15点、文房具・調度4点の計100点。国宝3点、重文19点を含むという文字どおりの名品展でした。茶道人口の多い石川県での開催であり、愛好者の方々にも十分満足いただけたことと思います。会期中開催いたしました講演会「畠山即翁の茶器蒐集と茶話」は、即翁の人となり、即翁と金沢の人達等々を同館主任学芸員武内範男氏により楽しい雰囲気でご紹介いただき好評でした。また、兼六園・時雨亭において、当館収蔵の茶道美術品を使用した『石川県民大茶会』は2日間で485人の参加をいただき、大変好評でした。当館収蔵品を使用するという初めての試みで、準備など大変で、無事終了できて良かったというのが本音ですが、美術館の今後の活動として展開させていくことの重要性を感じました。

「北陸の人間国宝展」は、23名の人間国宝の作品により構成し、陶芸・漆芸・染色・金工・刀剣・木工芸・截金・和紙とほとんど全分野の工芸があり、わが国でもとりわけ工芸技術の高い水準が維持されている北陸3県を紹介するものでした。当館では、このような石川県の特徴を紹介するために、工芸作品の収集に努めてまいりました。本展でも展示作品の約6割が収蔵品ということで、20年間の成果をご覧いただくことができました。また、通常はケース内に

展示しております銅鑼を今回は数点ケース外に展示しましたので、銅鑼の音を聞かせてほしいというご要望もあり、展示室での銅鑼の音を楽しむ会を実施しましたところ多数の入場者で賑わいました。

2階常設展示室で開催した特別陳列や特集は28回を数えました。

「夏休み 親子で楽しむ美術館 - 美術の動物園 - 」は、わかりやすく、楽しみながら美術に親しんでもらおうと新しい企画として始められたもので、楽しげな親子で展示室があふれました。

「尊經閣文庫名品展」は、開館20周年ということで、国宝 土佐日記をはじめとする古筆の名品とそれらを収納する蒔絵箱に重文 百工比照も加え、加賀藩において収集育成された美術工芸の精華を鑑賞いただきました。

(南 俊英 学芸第一課長)



銅鑼の音を聴く会



夏休み親子鑑賞会

美術館の本

石川県立美術館所蔵品図録	3,500
前田利為と尊經閣文庫	2,000
前田育徳会の名宝 百工比照	1,500
花と緑の名品展	2,000
日本の美	1,500
茶道美術名品展図録	2,500
石川県の工芸	2,000
大樋長左衛門の世界	2,200
西山英雄展	2,000
脇田 和展	2,200

税込定価(円)

ミュージアムショップで販売中!!
郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。
☎076 - 231 - 7580

貸出中の所蔵品

赤絵龍図花瓶	石野竜山
色絵松遊鯉図花瓶	石野竜山
葆光彩磁チューリップ文花瓶	板谷波山
色絵金彩海龍図遊環花瓶	春名繁春
色絵金彩花卉図鉢	

計5点

展覧会

「近代窯業の父 ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会」

会 期 4月3日(土)~6月27日(日)

会 場 愛知県陶磁資料館

平成15年度 新収蔵品一覧

平成15年度の新収蔵品は、寄贈16点、購入8点、計24点となりました。ご寄贈を賜りました各位に対し、改めて感謝の意を表します。また今後とも皆様の一層のご協力をお願いいたします。

平成16年3月31日現在の収蔵品総数は2745点です。

陶磁

赤絵小紋鉢 福島武山作
彩雲 戸出克彦作
笹に小禽図鉢 山田義明作

漆工

芦穂文蒔絵空穂 中原 強氏寄附
百合文蒔絵棚 中原 強氏寄附
金胎蒔絵花器 新村撰吉作

染織

友禅訪問着「螢燈籠」 吉本大輔作
友禅訪問着「趣」 茶谷孝志作

金工・刀剣

砂張花入 初代魚住為楽作 魚住安彦氏寄附
短刀 無銘 藤谷順子氏寄附
花色裾紫系威六枚胴具足 藤谷順子氏寄附

截金

木彫截金香の匣「みくまの」 西出大三作

日本画

乳虎之図 岸 駒筆 牛村繁男氏寄附
夏秋草図 酒井邦彦氏寄附
草花図 中原 強氏寄附
林間遠帆 野坂外好氏寄附
菅公幼兒・八幡・春日二社之図 紺谷光俊筆 野坂外好氏寄附
染殿の井 坂根克介筆 坂根克介氏寄附
舞扇 坂根克介筆
桜下人物図 紺谷光俊筆

油彩画

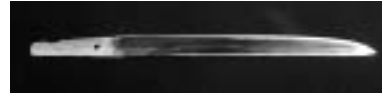
S夫人像 高光一也筆 新保甚平氏寄附
水門 田辺栄次郎筆 田辺多鶴子氏寄附
ピオットの屋並裏 田辺多鶴子氏寄附

彫塑

微風 山本力吉作 山本健太郎氏寄附



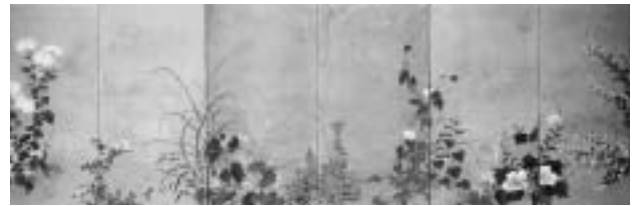
百合文蒔絵棚



短刀 無銘



砂張花入 初代魚住為楽



夏秋草図



林間遠帆 紺谷光俊



花色裾紫系威六枚胴具足



微風 山本力吉



乳虎之図 岸駒



ピオットの屋並裏 田辺栄次郎



S夫人像 高光一也



水門 新保甚平



舞扇 坂根克介

県美Q&A

Q 常設展示室って、いつも同じ作品なのですか？

常設展示室の作品はずっと変わらないのですか。また展示される作品はどのようにして決められるのですか。

A 常設展示の目的は、まず美術館の持つ所蔵品を公開することですが、特定のテーマなり、作家を取りあげた調査研究活動としての展示も含まれます。当館は県立美術館として、一室ごとに石川県の芸術世界を理解していただくために、作者の選定、作品の制作年代や形体、大きさ、材質、あるいは四季それぞれにふさわしい内容かどうかなど、様々な要素を加味しながら組み合わせを行っています。そして最も大切なことは、保存の観点から展示日数が制限されている作品も多いため、常に入れ替えを行っていることです。一般的に“常設展示”という言葉の響きには、いつも同じものを並べてあるという感じがあるかもしれませんが、そうではなく、「雉香炉」や古九谷の一部を除いて、各展示室は目まぐるしく変化しているのです。

企画展TOPIC

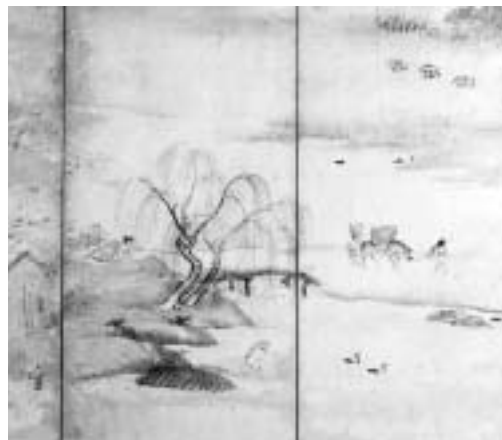
「日本の四季 - 春・夏の風物 - 」後編

春・夏の季節の情趣をよく表す事物を取り上げた作品、季節感を感じさせる人々のくらしを取り上げた作品として、洛中洛外図屏風、祇園会図、北野社頭阿国歌舞伎図屏風、賀茂競馬屏風、四季耕作図屏風、雨宿り図屏風を展示します。

洛中洛外図屏風は、応仁・文明の乱によって荒廃した京都の復興にともなって、その復興する景観や、そこに繰り広げられる人々の生活を取り上げたものです。古くからの四季絵、月次絵、年中行事絵、名所絵等のやまと絵が母胎となって発展してきたものです。勝興寺蔵・洛中洛外図屏風は、慶長17～19年(1612～14)頃の制作ですが、内裏、伏見城、二条城、清水寺、本願寺などとともに、祇園会の様子が描かれ、周辺には店舗や町家とともに町人や職人など庶民の生活が生き生きと描かれています。また、他の洛中洛外図屏風では、史跡・名所、歳事、農事、芸能、遊里などを取り上げているものもあります。祇園会図、北野社頭阿国歌舞伎図屏風、賀茂競馬屏風は、洛中洛外図屏風に描かれていたものが、それぞれ単独の主題として取り上げられ独立した作品となったものと考えられます。

四季耕作図屏風は、耕織図屏風とともに、領主が民の苦勞をしのぶという中国に起源を持つ一種の鑑戒画ですが、洛中洛外図屏風に取り上げられていた田打ち、種まき、田植え、稲刈りなどの農事を取り上げたものともいえます。四季絵の中に一年の農事を月次絵のように取り入れるという手法が用いられました。当初は中国風俗の図様で描かれますが、後に日本風俗へと変化します。それは、鑑戒画から田園風俗画への変化ともいえます。その田園風俗画としての四季耕作図の傑作の一つが久隅守景筆四季耕作図屏風です。農事の他に、鷹狩り、鶺鴒飼、釣り人、水汀で納涼する人など身近な農村の風景が情趣深く表現されています。その一部分を取り上げたともいえるものとして、守景の作品として有名な国宝夕顔棚納涼図屏風があります。雨宿り図屏風は、他の四季耕作図屏風で取り上げられている俄雨を独立した作品としたものといえます。

これらの作品の成立、展開を少し意識しながらご覧いただくと、より楽しくご鑑賞いただけると思います。
(南 俊英 学芸第一課長)



四季耕作図屏風(部分)

「日本の四季 春・夏の風物」の会期は
4月24日(土)～5月16日(日)です。

各地の展覧会 4月

- 開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。
- 東洋陶磁の展開 4/11まで
大阪市立東洋陶磁美術館(大阪市・06-6223-0055)
 - 横山操と横の会の作家たち 5/5まで
新潟県立万代島美術館(新潟市・0258-28-4111)
 - 没後20年 荒川豊蔵と加藤唐九郎展 4/6～5/9まで
富山県水墨美術館(富山市・076-431-3719)
 - 青木繁と近代日本のロマンティズム 5/11まで
東京国立近代美術館(千代田区・03-5777-8600)
 - ポスターのユートピア展 4/5～5/16
新潟市美術館(新潟市・025-223-1622)
 - 弘法大師入唐1200年記念 空海と高野山 4/6～5/16
東京国立博物館(台東区・03-5777-8600)
 - 亀山法皇700年御忌記念 南禅寺展 4/6～5/16
京都国立博物館(京都市・075-541-1151)

催し物が変わります

今年度は、ホールや講義室で行ってきた催し物が大きく様変わります。

毎週土曜日に開催してきた「土曜講座」が変わります。これまでのような講義室での講座は二週に一度となり、回数の上では少なくなります。それに代えて月に一度は「ギャラリー・トーク」を取り入れて、展示室でお話をします。当館開催の企画展はもちろん、毎月展示内容の変わる常設展示室の作品を、

いろいろな角度から紹介するものです。この行事では、毎回、展覧会の入場料金が必要となりますので、ご注意下さい。

要望の高かった子ども対象の行事も始まります。「夏休み親子で鑑賞会」は昨年同様に鑑賞と制作をすすめます。それとは別に、常設展示室の作品を前にして話をする「子ども鑑賞講座」という企画を毎月一度行います。ご家族そろっての来場をお待ちしています。

日曜日は「月例映画会」と交互の開催の形で、「ビデオ鑑賞会」が新たに加わります。美術に関するビデオ番組を上映するもので、美術の見方や作家のシリーズなど最新のビデオも含め、盛り沢山のプログラムとなります。今年度は「国宝シリーズ」を上映していく予定です。詳しくは毎月の「美術館だより」でご確認下さい。

参加希望の大変多い「文化財現地見学」は、秋の1泊2日の旅行に加え、春先に「美術館バスツアー」を計画しました。第1回目の今年は、輪島・柳田をめぐるコースです。申し込み方法や集合場所など、秋の旅行と異なりますので、この先発行される「美術館だより」にご注目下さい。



夏休み親子鑑賞会
「古美術をさぐるう」
小学3・4年生対象

企画展示室

第60回現代美術展

4月3日(土)~18日(日)第3~9展示室)

部門 日本画 洋画 彫刻 工芸 書 写真

入場料 一般 800円(600円)

大高生 600円(400円)

中小生 500円(300円)

()は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

連絡先 金沢市香林坊2-5-1

北國新聞社事業局 ☎076-260-3581

第1回美術館バスツアーのお知らせ

今年度から新しく日帰りのバスツアーを計画することになりました。北陸の美術館や博物館をはじめ、神社、仏閣、名所、旧跡を見学する予定です。第1回目は下記の日程で準備を進めています。見学コースや申し込み方法などの詳細は、来月号に掲載いたしますので、しばらくお待ちください。

日 程 6月13日(日)

集合・解散 金沢駅西口

見 学 先 輪島市・柳田村

見 学 地 石川県輪島漆芸美術館(輪島市)

南惣美術館(輪島市)

法華寺(柳田村)他

募集人数 45名

申込方法 往復葉書

4月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
4/11(日)	月 例 映 画 会	伝統に生きる 加賀蒔絵 [大場松魚・寺井直次・小松芳光](28分)	ホール
4/18(日)	ビデオ鑑賞会	国宝1 法隆寺 釈迦三尊像と玉虫厨子(35分)	ホール
4/24(土)	ギャラリートーク	日本の四季 (南 俊英 学芸第一課長) 展示室内で行われるため、企画展の入場料が必要です。	講義室
4/25(日)	月 例 映 画 会	手漉和紙(30分) 金箔(26分)	ホール

行事内容が変更になる場合がありますので、ご確認ください。
4月の全館休館日は19日(月)~21日(水)です。

能「杜若」の一場面です。諸国を行脚する僧が、三河国八橋の沢辺に美しく咲き乱れる杜若に見とれていると、杜若の精が女姿で現れて、『伊勢物語』にある業平東下りの杜若をめぐる話を語るという内容です。

女面をつけた杜若の精が、業平追慕の心を秘めながら、業平と女性との契りについて語り、幻想的な世界に舞っています。

この像は、現在石川県に三体残っています。最初は昭和27年、石川県議会議事堂落成記念として、議事堂内部の壁面から議場を見下ろすように設置されたものです。県庁移転に伴って鞍月に新議会庁舎が建てられ、現在は新庁舎の一階ロビー正面に、設置されています。

二体目は石川県能楽堂の前庭に立つ像です。もとは、金沢駅の正面入り口前にありました。金沢駅の再開発により住処の無くなったこの像は、現在の場面にあわせて、能楽堂へ移築されました。この二体目は市民からの指摘により、駅前で完成後に頭上の冠が付け替えられました。輪の形をした観世流の冠（当館所蔵の作品と同じ形）がついていたのですが、加賀宝生の地金沢にふさわしく、ということで宝生流の形である議会庁舎のものと同じ形のまっすぐ後方に垂れる簾に変えられたのです。



三体目が当館が所蔵するこの像です。議場設置のための制作後、白日会展に出品する際に、観世流の冠に付け替えたものです。昭和51年、ご遺族から寄贈を受けて当館の所蔵となりました。

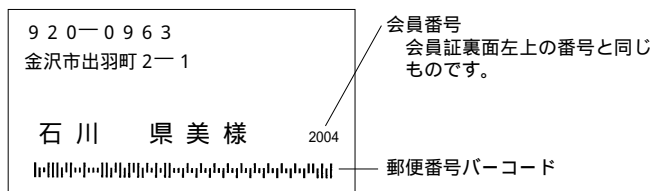


かき つばた
杜 若
よし だ さぶろう
吉田三郎 明治22年(1889)~昭和37年(1962)

昭和28年 1953
第30回白日展
高144.5 幅90.5 奥行60.5(cm)

友の会からのお知らせ

このたびは友の会へご入会下さいましてありがとうございます。会員の皆様のお手許にはこの『美術館だより』を毎月お送りいたしますが、送付封筒の宛先ラベルは下記のようになっております。記載事項に誤りまたは今後変更などがございましたら、お手数でもご一報下さいませようお願いいたします。また会員証提示による入館料割引は、石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館でも受けることができます。いずれも各館主催展覧会に限りますが、お出かけの際にはどうぞご利用下さい。



次回の展覧会

- 特集 春の優品選(後期) (前田育徳会・第2展示室)
- 特集 木の表情 (第5展示室)
4月22日(木)~5月16日(日)
- 当館企画展
日本の四季 春・夏の風物 (第7~9展示室)
4月24日(土)~5月16日(日)

休館日：4月19日(月)~22日(木)

石川県立美術館だより 第246号
2004年4月1日発行
〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>